

『複言語・多言語教育研究』
創刊号

目次

理事長挨拶	刊行の辞	山崎 吉朗	1
副理事長挨拶	JACTFL の役割	吉田 研作	4
	共通目標に向かって力の結集を	中野 佳代子	6
理事挨拶	今なぜ多様な外国語教育が必要なのか？	白山 利信	8
	単言語主義の息苦しさを超えて	境 一三	10
	多言語を知る、触れる、そして活かす	迫田 久美子	12
	新しい時代の外国語教育の推進と JACTFL の果たすべき役割	當作 靖彦	14
	JACTFL 発足に寄せて	藤井 達也	16
	新たな外国語とのあい	水口 景子	18
論考	中等教育における複言語教育の現状と問題点	山崎 吉朗	20
	『ヨーロッパ言語共通参照枠』(CEFR)は日本の外国語教育に何をもたらしたか？	境 一三	34
	「スペイン語学習のめやす」策定の試み	大森 洋子	53
	韓国語学習の高大接続を考えるー関東国際高等学校韓国語コースの13年を振り返りつつー	黒澤 眞爾	63

高校生の第2外国語としてのフランス語 高校生が学習してみて感じること—2 回目のアンケート結果から—	島田 幸子	71
高校生ロシア語学習者が同年代のロシア人と 出会う機会を模索して—東京都内でロシア語を 学ぶ生徒たちとの取り組みを例に—	福田 知代	83
短期間のプロジェクト型学習の試み	藤井 達也	107

JACTFL 第1回シンポジウム「外国語教育の未来(あす)を拓く」実施報告

基調講演報告1 日本外国語教育の未来を拓く	當作 靖彦	120
基調講演報告2 これからの外国語教育とJACTFLの役割	吉田 研作	129
パネルディスカッション「これからの外国語教育のあり方」 —いま言語を越えて協力できることは何か・JACTFLに期待すること—			
報告要旨1 「共生の(ための)言語教育」に向けて	境 一三	138
報告要旨2 第二言語・外国語としての日本語教育から発信できること	迫田 久美子	139
報告要旨3 Global English と身近な個別言語の立体学習を	長谷川由起子	140
報告要旨4 新たな言語教養のために	立花 英裕	141
報告要旨5 複数言語を背景にしたゼミは可能か?—早稲田大学教育学部複合文化学科の実験から—	村上 公一	142
報告要旨6 外国語教育政策の視点から	森住 衛	143
総括コメント 歴史的な希望の第一歩となることを	白山 利信	144
JACTFL 中長期事業計画策定のための課題意識・ニーズ調査結果報告	中野 佳代子・ 水口 景子	146
一般社団法人日本外国語教育推進機構設立趣意書		157